

地球時代の選択肢
南アフリカに移住した家族
吉村 稔・吉村峰子（南アフリカ・ダーバン在住）



第 67 回 米国の家族との 50 年

2023 年はダーバンを離れる機会が多い一年でした。訪問したのは日本、イタリア、そして米国です。

その中でも、9 月の終わりから 11 月初旬まではローマ経由で米国に行っていました。まず娘一家の住むイタリアのローマで数日過ごし、それからローマからロンドン経由で米国のオレゴン州ポートランド方面へ行きました。帰りも同じルートで合計約 5 週間弱の旅でした。

目的は、7 月に亡くなった私の米国のホストファミリーの父ジョージのメモリアルサービス（お葬式）でした。私は 10 代の後半で米国に渡り、大学の付属の英語学校で勉強してから大学に入学しました。彼らは、当初から家族の一員として私を迎え入れてくれ、それ以降半世紀にわたりそれぞれの節目には必ずお互いを訪問しあっていたのです。

今回のお葬式は、ジョージが数年間軍隊にいた関係で、米国の軍属のための施設での式典とその後の告別式に分かれていました。その席でいただいた記念の盾のようなものにはバイデン大統領のサインもありました。

今回の“告別式”は、故人のそれまでの人生を振り返って、家族友人が彼の人柄や彼とのエピソードを語りながら、美味しいワインや食事を楽しむ会でした。私は日本にいた頃より大勢の人の前でスピーチをする機会が多いので、こういう時はいつもご指名されてしまいます。今回も出会いから私が彼ら夫妻と過ごした半世紀近くの日々を語らせていただきました。



こういった会が、Celebration of Life（人生の祝典）という呼ばれ方をされるのも素敵だと思います。

以下はジョージが亡くなった直後に家族に向けて書いたものです。

+++++

寝つきのよい私。10 年くらい前までは、ベッドに入って眼をつむり、次の瞬間は朝、というシアワセな人生。

その私が深夜零時に目が覚めた。理由が分からず水を飲む。どういうわけか心が落ち着かない。ふと携帯を見るとブリンダ（米国の妹）より着信が。

20分くらい前のそのメッセージには、ジョージが危篤状態だと。

実は、その数日前、現在滞在中のローマからジョージがいる米国西海岸パームスプリングスへ移動しようか真剣に検討していた。が、そうしているうちに自分の体調がやや悪くなってしまって、娘夫婦に移動案は断固反対されローマからポートランドへの移動は断念していたのだ。

「お祈りしているよ」とメッセージを送る。

そして、彼女からの次のメッセージは彼が他界したとのお知らせが。

それは、ちょうど私が理由なく深夜に目覚めた頃。理由はあったんだね。

もう数ヶ月間意識が戻ったり、戻らなかったりだったのに、最後に私とビデオ電話がつながった時はそれこそ昔の彼そのもの。

上唇をちょっとあげて、

「You can come if you cook! お料理するならこっちに来てもいいよ!」って。

奇跡の一瞬。

Life is a gift 生きているのは奇跡そのもの。



お葬式後の家族写真

10代後半から半世紀もの長い間、米国のお父さんをしてくれたジョージ。

もう痛みもないね。先に逝ったベバリーたちと好きな赤ワインを飲んでてね。そちらに行ったら、二人の大好きなトンカツつくります。そしてまたあの古いジョークを何回も何回も言って笑うんだよね。もう少し待っててね。

+++++

お葬式後、亡くなったアメリカの両親からのちょっとした遺産分けというか、妹の配慮で旅費プラスのお金をいただきました。でも、これは何か形に残した方がいいな、と思い、ローマに戻ってから、娘に相談しました。

「お母さん、こういうときは、普段は買わないようなものを買うのがいいと思う」という娘の提案で、欧州の老舗高級ブランド品のバッグを見てみました。でも、その桁違いの金額にめまいがしてきました。

普段、南アでも欲しいものは買っているんです。が、それは南ア産のワインとかコットンのワンピースとか。私の浪費なぞたかがしれているのです。

従い、日本円で数十万円もするバッグを見て、「ううう～ん、この値段はプロ用のオープン買える」などと唸っていたら、「お母さんの行くべき店がわかった！」と娘が叫びました。連れていかれたのは、ビンテージのお店（古着屋さんとは言わないそうです）でした。そのお店は今シーズンのもものも置いているローマでも人気のお店だとか。

そして、店内に足を踏み入れた途端、「うわ～、素敵」と遠くからでも一目ぼれのコートがありました。でも、普段だったらまず買わないで、「素敵ね」とだけ思っていたかもしれません。



でも、今回はアメリカの両親を近くで感じたい、という理由でのブランドもののお買い物。近寄ってみたら、超有名ブランドの薄手のコート。縫製がただただ素晴らしい。不思議なプリントで墨絵のような奥行きもあるのです。

お値段も十分予算内だったので、ありがたく購入しました。娘も大絶賛でした。これを来てダーバンへ帰ってね、と。

袖を通しただけでは分からなかったのですが、ダーバンへの帰路、このコートを着てみると、あまりの着心地のよさにさらにびっくりしました。どうやらシルクらしい表地と、完璧なパターンとそれを見事な縫製で支えられたコートです。欧州の名門ブランドもののお洋服とはこれほど底力があるんだ、とつくづく思いました。

これから先、このコートでいろいろな街を歩く楽しみができました。米国の両親が残してくれたものは計り知れません。そして、このコートは袖を通すたびに

いろいろな思い出も一緒に蘇ってくるのです。

人と人の出会い、それからのつながり方。これにどれだけ助けられてきた人生でしょう。自分の恵まれた環境に心から感謝しています。